

「市民参加フリートークセッション」 レポート

まちづくり活動を活性化する！市民トークセッション①

コロナに負けない

持続可能なまちづくり活動に必要なものは？

アウトプットまとめ：全体対話

問い：コロナがもたらした、私たちの活動や地域への影響は？浮き彫りになった課題は？

参加者から共有されたキーワード

まちづくり活動の、運営企画に関わるもの

- **人と会えない・集まらない：**
 - 対面の会議ができない、気軽に誘えない・話せない、遠慮
 - 会合での飲食ができないため、コミュニケーション時間が短く
 - 人と会えなくて寂しい、孤独化
 - 会えないうちに、じわじわと人間関係が薄くなって、活動の基盤が失われそう
- **活動の一部がストップしている：**
 - 気軽に活動に参加できない、誘いにくい
- **活動のあり方を根本的に見直すきっかけになった：**
 - 多くの市民団体・地域団体が陥っている「前例踏襲」の文化の改善を目指すべき

まちづくり活動の、対外的な活動に関わるもの

- **イベントが開催できない：**
 - 人が集まる行事を開催できない
 - 飲食を伴うイベントを得意とするまちづくり活動がストップしている
 - 予定の変更がいつ起こるかのリスクが常にある
 - 何をするにも、対策や風評に対してとても慎重に行動しなければならない

オンラインへの対応

- **個人のITスキル・環境格差：**
 - 年配の方とオンラインで繋がりにくい
 - パソコンが苦手で、ついていけない人がいる
 - ネット環境が不安定でオンライン参加がうまくできない
- **活動団体のIT格差：**
 - 組織としてITに取り組めていない

まちづくり活動のテーマ：地域経済

- **観光地、商店街で閉店や撤退：**
 - 経済再生をどんな方向で行うのかが問われる
- **就労・雇用：**
 - これまでの就労支援の仕方が通用しない
 - 障害者雇用が減った

まちづくり活動のテーマ：子ども・家庭

- **子どもの居場所が無い：**
 - 子どもの遊ぶ先が無くなった中で、在宅ワークをし、高ストレス状態
- **お友達・ご近所の状況が見えない**
- **貧困家庭の増加・加速**
- **QOLが下がってしまう：**
 - 感染対策のために、行動制限があり、生活の自由が奪われている

アウトプットまとめ：グループトーク 1班

問い：私たちが、これからも活動を続けていく上で、自団体・まち・行政に必要な仕組みや取り組み、サポートはなんだろう？

参加者から共有されたキーワード

運営企画

- **団体内部で方向性を見直すための支援：**
 - 本質的な活動の意義を捉え直したり、方向性を整理するサポート、そういった役割を担うサポート役がいると良い
 - 団体や組織としての、問題意識の共有が必要
 - WILL、CAN、NEEDのフレームワークなど、ワークの提供
 - 行政からの補助金をもらうことが目的にならず、本当の目的・考え方がぶれないようにする必要がある
- **団体外部からの視点を取り入れるための支援：**
 - 団体内部だけで話していても変わらない部分があるので、外部からの考えを取り入れるチャンスにする
 - 困っている団体に、外部のファシリテーターが入ることが重要
- **資金面での支援：**
 - 京都市の財政が厳しい中で、いつまで資金的支援ができるか？
- **その他ソフト面での支援：**
 - ノウハウ（オンラインなど）への支援
 - ソフト面の支援が、お金以上に重要
- **その他ハード面での支援：**
 - オンアクリル板や消毒液ではなく、Wi-Fiなど長期的に必要なものの支援

オンライン対応

- **特に高齢者：**
 - オンラインが使えるようにサポートする
 - Zoomの使い方を教える機会・サービス
- **京都市：**
 - 京都市もオンライン導入をもっと頑張って欲しい、部署間での温度差がある
 - 行政がオンライン教育などの大枠を示す方が良くなるのでは

地域経済再生

- **観光依存からの脱却：**
 - 99.7%の外国人観光客が減っている
 - 観光客ありきのまちだったが、京都の中で経済を回す仕組みを考える必要がある
 - 例えば、地域限定クーポンなど
- **就労・雇用：**
 - 飲食店やゲストハウスが無くなるのが、仕事が無くなる人がいるため、雇用の維持が重要

アウトプットまとめ：グループトーク 2班

問い：私たちが、これからも活動をしていく上で、自団体・まち・行政に必要な仕組みや取り組み、サポートはなんだろう？

参加者から共有されたキーワード

情報とスキルの共有

- **コミュニティでの助け合い：**
 - コミュニティ内の課題や強みを、コミュニティ間で共有できる仕組みが街にあると良い

市民相互の助け合いを広げる

- **支援を必要としている人と、支援できる人とのマッチング**

リアルで会うこと、対面の意味を見直す

- **雑談や出会いの場としての機能があった**
- **教育育成・伝承はリアルや対面の場の方が良い**

オンライン対応

- **広い世代が使えるように：**
 - ユーザーインターフェースを、ユニバーサルデザインに
 - 高齢者が一歩を踏み出すITサポートは地域内で行い、そこから先はIT企業などもサポートする
 - なるべくシンプルで手数の少ない方法で、オンラインに繋がれる仕組みが必要
 - 通信環境、機器が整っていない部分の経費はどうするか
- **オンラインの難しさを乗り越える：**
 - オンラインでの人間関係の構築は、ファシリテーション能力が必要になる
 - 人間関係・チームビルディングにおいては、情報量が少ないため、五感を使って、目線・表情・雰囲気・空気感を捉えて行かないと、信頼関係が構築しにくい
 - オンラインでも再現できることはやってみる
- **京都市：**
 - 行政がオンラインを知らないと、そもそも推進できない
 - オンラインも含めたまちづくりの情報が共有できるように、ガイドラインが必要

アウトプットまとめ：グループトーク 3班

問い：私たちが、これからも活動を続けていく上で、自団体・まち・行政に必要な仕組みや取り組み、サポートはなんだろう？

参加者から共有されたキーワード

運営企画

- **団体内部で方向性を見直すための支援：**
 - どんな活動を続けるべきか、それを話し合う場をサポートして欲しい
 - やめるべきことと、進めるべきことの基準や方針を明確化できると良い、またそのファシリテーションがあると良い

対外活動

- **どうしてもする必要があることと、する必要のないことを精査：**
 - 活動をすると炎上したり、叩かれたり、バッシングされるのが嫌
 - イベント・行事を求めている人もいる！

オンライン対応

- **特に高齢者：**
 - 高齢者でスマホを持っている人も意外と多いので、市内の高齢者地域で、ネット環境やスマホ利用率を調査してみる
- **オンライン化を進める人を増やす：**
 - Zoomの使い方を広げるのに、地域に入って、草の根で少しずつ広げていく人の支援が必要
 - 行政がオンライン教育などの大枠を示す方が良くなるのでは

地域のつながり・交流

- **希薄化：**
 - 本質的には、なんらかのつながりが欲しいと求めていると思うので、どう支援していくのが難しい
 - 田舎の祖父母との交流も気軽にできない
- **高齢者：**
 - 高齢者見守りに特化した支援
 - 拠点を繋いで、健康体操教室を実施するなど

アウトプットまとめ：グループトーク 4班

問い：私たちが、これからも活動を続けていく上で、自団体・まち・行政に必要な仕組みや取り組み、サポートはなんだろう？

参加者から共有されたキーワード

運営企画

- **団体内部で方向性を見直すための支援：**
 - 本来の目的や意義を考えるサポート
 - 活動の「何が大事か」「何を残していくか」を議論するサポートが欲しい
 - 自分たちが立ち上げた組織ではなく、前例踏襲の組織の場合、「では自分たちの組織はどうあるべきか」と考えにくく、続けることが一番大事になりがち
 - 目的は変えずに、時代に合わせてやり方を変えていく
- **資金面での支援：**
 - 活動のための補助金が必要
 - ただし、その補助金を取りに行くことが目的となって、活動が打算的になってしまう負の面もある

対外活動

- **バッシングへの恐れ：**
 - 行政から、バッシングをされないようなサポートをして欲しい
 - 医学的な視点からの、感染予防の指針を示すなど
 - ただし、主体性は大事にすべき

市民相互の助け合いを広げる

- **組織の枠を超えた横のつながり**
- **コミュニティ間の連携**

オンライン対応

- **特に高齢者：**
 - 高齢者むけのオンライン講座を、京都市でも開催しているが、「やってみよう！」とはならない
 - 最初のハードルが高いため、まずは実際に使ってみて、こんなに便利なんだ！と知ってもらう必要がある
 - まちのおじいちゃんがやっているような飲食店は、オンライン活用のテイクアウトに乗れていない
- **京都市：**
 - 京都市が先にオンライン化を！

地域経済再生

- **観光依存からの脱却：**
 - 観光関係で働いていた人が、一気に雇用が無くなってしまったため、自分たちで経済を回せるようになる必要があると感じた例えば、地域内のゲストハウスやオフィスで使える地域通貨

子ども・家庭支援

- **地域通貨の活用：**
 - 子ども食堂を利用しているシングル世帯に、地域通貨を配る
 - 子どもたちが高齢者のお手伝いをしたら、地域通貨をもらえる

まちづくり活動を活性化する！市民トークセッション②

新たな「まちづくり」プレイヤーが
参画しやすいまちにするには？

アウトプットまとめ：全体対話

問い：そもそも「まちづくり」ってなんだろう？私たちが「まちづくり」という言葉を使うとき、なんのことを指して使っているんだろう？

参加者から共有されたキーワード

住みやすいまちに自分ですること

- まちづくりとは未来づくり
- なにより市民が主人公！
- 住んでいて良かったまち、これからも住み続けたいまち
- 住みやすい、暮らしやすい
- 市民が中心となって、考え行動する
- 人々がつくるもの
- 暮らしやすくなるための、何らかの活動や取り組み
- 地域の「困った」を改善すること
- まちを良くする活動、地域の活動
- 駅前の清掃、ゴミ拾い
- 大袈裟でない何かの活動

住民同士のつながり・助け合い

- 住民同士が助け合い、関わり合うこと
- 地域のつながり
- 近所の挨拶

- 地域の住民が気軽に話ができる場
- いろいろな人が関わるもの
- いろいろな人が集い、定住する場所
- 地域のQOLを高めるための、住民の共助の動き
- 若い子育て世帯の地域行事への参画
- 地域での子育て

地域の協働・公共活動

- 文化をつくったり、伝えたり
- 個人の利益と、みんなの利益を、同等に目指すもの
- 個人だけでない、不特定複数への利益がある
- 公的に共有できること
- 地域の底力を醸成する場
- 新しい、これまでにないものを、みんなでつくる
- 地域と一緒に何かに取り組む
- 地域課題の解決に、地域住民などが協働で取り組むこと
- 多様なセクターが協働して進める

アウトプットまとめ：グループトーク 1

問い：あなたがまちづくりに参加した、あるいはしたいな、と思ったきっかけや、まちづくりに参加してよかったな、と思ったことはなんですか？

各班から共有されたキーワード

きっかけ

• 入り口：

- 仕事として、会社として
- PTA活動
- 自治会
- 地域活動
- ボランティアが一番入りやすい
- 掲示板で調べて参加した
- 入りやすさのハードルは人それぞれ

• 気持ち：

- 特定の団体の活動に興味がある、やってみたい気持ち
- 人が集まる場所に行きたい気持ち
- 長く住んでいたまちに参加したい気持ち
- 子どもと1；1でいると内向的になるから
- 阪神大震災の時に、何かできないかと思った
- 生活相談の支援がやりたかった
- フォーマルだけではなく、インフォーマルな支援をするには、地域とのつながりが必要

参加して良かったこと

• 地域の人喜んでくれること：

• 情報を共有できる：

- 小学校や子どものことなど、地域の情報を教えてもらったり、発信できたりする
- 自分の子どもの口から聴けないことを、他の子どもから聴ける

• つながり・関係づくり：

- 子どもの学校以外で、地域と子どもたちのつながりや学びに、関わることができる喜び
- 不安なことを相談できる・話せる場があること
- 現場プレーヤーとたくさん会えた
- 友人や知人がたくさんできた
- どこに行っても挨拶できる関係があって、安心できるまちだと感じられるようになった

• 成長：

- コミュニティで、知らないことを共有できる
- 学生時代に地域支援、見守りの現場の本音を知ることができて良かった
- 知ることで変わる
- いろいろな立場の方、主体者と知り合えて、自分の成長につながった
- 世界が広がった
- プライベートの考え方も変わった、面白い！
- まちづくりの活動に参加して、偏見がなくなった

アウトプットまとめ：グループトーク 2

問い：なにがあると、100点満点になりますか？

各班から共有されたキーワード

多様な人が参加する仕組み

- **全ての人を内包する雰囲気：**
 - コミュニティとしての包容力・包摂力
 - 世代間の溝を超える縦のつながり
 - 新しいプレイヤーを受け入れる度量、任せる度量
- **若い働く世代の参加：**
 - 企業で、ボランティアを推進・評価する制度
 - 企業で、まちづくり参加ができる休暇制度
 - 時間がない会社員でも関われる仕組み
 - 若者にとっての魅力、興味を沸かせるもの
- **高齢世代の参加：**
 - すでにある様々なコミュニティを、地域でつなげるSNS
- **多様な参加の仕方：**
 - ゆるやかな参加など、いろんな参加のパターン
 - どっぷりではなく。薄く長く関わる方法
 - やりたい分だけ関われるような仕組み

共創のつながり

- 個々で頑張っているのに、行政・地域がうまく繋がる
- プレイヤーはたくさんいるけれど、整理してまとめて進めていける人が足りない

活動を持続させるためのサポート

- **資金面：**
 - アイディアと人だけでは物事は進まない
 - 京都市の財政は厳しい面もあるので、シリコンバレーのような資金を集める方法も考えた方が良い
 - 資金分配を見直し、新しいまちづくりのための資金を生み出す
 - 補助金の使い勝手
- **組織・人材面：**
 - アイディアを支援する仲間を集めやすい仕組み
 - 新しいチャレンジが許容・応援される組織
 - 何かやりたいを、まとめる力
 - 組織運営・世代交代
 - 世代が交代しても、人が変わっても、やることは変わらないで継続できる組織づくり

大学生が卒業後も京都に残る

- いろんな年代の縦のつながり

市民参加を推進する市民トークセッション①

こども・若者が市政に関心をもつには？

教育はどう関われるのか？

アウトプットまとめ：クロストーク

問い：子どもや若者が自分が住むまちの市政に興味を持ったり、自分なりの意見を考えたり、実際に発言できるようになるには、どんな教育や大人の関わり方が重要か？

ゲストから共有された9つのキーワード

基本計画を教科書にした授業

- 基本計画が子どもや若者に届いていない
- 基本計画（予算編成方針も含む）を教科書にしなが
ら、**施策を実施すべきか考える力を養う**

動画を使ったパブリックコメントの募集

- 長文の説明資料は読まれない
- 動画を使うなど**発信方法に工夫が必要**である

市政参加を体験できるゲーム

- **楽しみながら**、京都の課題を知り解決策を考えられる
といいのではないか（京都市民版人生ゲーム）
- ユースカウンシルでは右京区を舞台にしたボードゲ
ーム、同志社大学の授業ではシチズンシップ教育に
つながるゲームを作っている

ミスできる力を育む

- PBLの授業では、PDCAのうちPDCまでしかできて
いないことが多いのではないか。**一度うまくいかな
くても、もう一度試せばよい**
- うまくいかないことを失敗としないことで、**社会に
変化を起こそうというチャレンジ精神**を育む

子ども・若者とともにつくる

- 子どもや若者は**自分たちのモヤモヤが市政につなが
っていると感じることができているか**
- 子どもや若者が**市政参加することを自己決定できる**

逆算的に発想する力を育む

- 実現したい未来から逆算してアクションを考える
SDGsの考え方
- 子どもや若者の**市政へのモヤモヤから実現したい未
来を描き、そのために学ぶという動機付け**ができれば、**市政参加と学びがつながる**のではないか

権利としての「参加の場」が開かれている

- 子どもや若者の**姿勢参加率の低さ**を問題にしがちだ
が、**本当に興味がないの**だろうか
- そもそも**子どもや若者が参加しやすい場**になってい
るのか（時間、開催場所など）

学びながら考え発信できる仕組み

一歩踏み出す力を支える

アウトプットまとめ：全体対話

問い：子どもや若者が自分が住むまちの市政に興味を持ったり、自分なりの意見を考えたり、実際に発言できるようになるには、どんな教育や大人の関わり方が重要か？

参加者から共有されたキーワード

市政とのつながりの実感

- **暮らしと市政をつなげる**
- **自分たちの意見が市政に反映されている**という実感：
 - 「親」向けの政策ばかりになっていないか、子ども・若者に向けた政策はあるか
- **市政参加してよかった思える経験**：
 - 市政参加に対するフィードバックがあるか
- 座学ではなく**市政参加が腑に落ちるような体験創出**

大人が市政参加している姿を見せる

- **大人も意外と“頑張っている”、意外と“使える”**と、子ども・若者に認識してもらう：
 - 子ども・若者の市政に対するモヤモヤのうち、すでに大人が取り組んでいることがあることを知ってもらう
- **大人（親）が楽しく市政に取り組んでいる姿**を見せ、そこから子どもや若者が学べる環境づくり：
 - 学校での学びと、家庭での親のあり方に乖離はないか（親は市政参加に関心がないなど）

子どもと大人の学び合い

- **学校外学習、地域教育**：
 - こどものやりたいことと地域の人々の想いを重ね合わせ、地域の中で／地域から学ぶ
- **多様な大人との出会い**：
 - 面白い大人に出会う体験、大人との共通体験をつくる
- **子どもと大人の学び合い**：
 - 子どもと大人が尊重しあう、大人が子どもから学ぶこともある

子どもや若者への正しい理解

- 子ども・若者は市政に興味がないと一括りにしない

子どもや若者が市政参加しやすい場づくり

- 子どもや若者にとって**共感性の高い開かれた場**：
 - 子どもたちがモヤモヤを共有しやすくする工夫が必要（ハッシュタグをつけて投稿するなど）
- **子どもや若者が発信しやすい方法／場**をつくる

エンタメ要素を取り入れる

- **市政失敗談をエンタメ的に共有する**

市民参加を推進する市民トークセッション②

誰もがつつい「市政参加」してしまう
デザインアイデアソン

アウトプットまとめ：パブリックコメントチーム

問い：手間が少なく色々な意見が聴けるパブコメとは？

ベストアイデア

- **まちまるごと市政参加フェス**
 - 1Dayイベントにすることで、まとめて効率化
 - 近所の公園や学校などがメイン会場だが、それ以外にもあらゆるところでパブリックコメントできる
 - 飲んだり、食べたり、ワイワイできるフェス要素
- **まちの色々なところにQRコード付きポスター**
 - 内容に合わせて、電車やカフェ、居酒屋、病院などにQRコード付きポスターを掲示
 - 簡単な質問ページにアクセスし、隙間時間に回答
- **統一地方選にあわせてパブコメ週間**
 - 統一地方選の時期（4月上旬か下旬）にあわせてパブリックコメントを実施
 - 投票する候補者を記載する機の横に、パブリックコメントを記載する机を用意
- **カフェ感覚で市民が参加しやすい拠点**
 - 人通りが多い、人が集まりやすいところを活用
 - 参加するとポイントがたまり、市政参加している明証であるピンバッチや、京都の特産品などと交換

• 論点を整理したアンケート方式

- 当該委員会以外の**第三者委員会**が中立的に論点整理
- 整理された論点をもとに、**政策形成の過程**で市民の意見を集約・公表し、委員会に反映する

• 授業でパブコメ

- **大学などの授業**でパブリックコメントについて説明し、学生が意見を出し合い、取りまとめ、提出
- **教材としても活用**でき、**学生全員が市政参加**できる

検討途中のアイデア

「まちの街頭箇所で起こる行動に紐づけて投票」「投票場にパブコメ回収機能」「パブコメ専用SNS」「コンビニで募金×パブコメ」「インタラクティブ掲示板」「パブコメポイント」「パブコメでできた仮装のまちをオンライン上に展開」「パブコメ委員」「隙間時間にできる」「資料が少ない」「スマホ活用」「簡単にたどり着ける」「AI活用」「どこでもできる」「動画で解説」「通年募集」「読みやすい・わかりやすい要領」「行政担当者・議員の思いが見えるパブコメ」「意見が反映されるプロセスの可視化」「書き起こし機能」「ライブ配信とアーカイブ」「統一地方選にパブコメ習慣」「パブコメのポイント化」「パブコメの効果を伝える」「パブコメのPV」「世代別のタッチポイント」「市政へのそもそもの興味獲得」「コメント記入サイネージ」「個人に最適化した情報提供」「論点を整理したアンケート形式」「形式的に聞く」「学生が映像制作」「授業で募集」「委員会発足時に募集スケジュールを出す」「アンケート結果をもとにさらに議論」「障がい者への配慮」「パブコメ月間」「町内かで行う」「インフルエンサーの宣伝」「飲み屋で配布」「答えやすくする」

アウトプットまとめ：対話チーム

問い：ついつい参加してしまう対話の場とは？

ベストアイデア

- **朝ごはんを食べながらワークショップ**
 - 気持ちのいい朝に、**京都のものが使われたおいしい朝ごはんを食べながらワークショップ**
- **成人式にはおにぎりで乾杯**
 - **成人式（既存のイベント）にあわせて対話の場を設ける。おにぎりを食べながら楽しく**
 - **大人になった証**として象徴的に市政参加する。成人式をきっかけにまちの未来を考える
- **好きなお米を持ち寄って楽しく対話**
 - おにぎり、天むす、おにぎらずなど、**好きなお米（おにぎり）を持ち寄って、それを食べながら対話**
 - おにぎりが話のきっかけにもなる
- **ついで参加の機会を作る**
 - ごみ問題についてはスーパー、ペット問題については早朝や夕方の公園（散歩のついで）など、**テーマや対象にあわせて、何かのついでに参加できるようにする**
- **銭湯で語り合う市政参加**
 - 銭湯など、**心地よい空間**で市民対話・市政参加

検討途中のアイデア

「成人式でWS」「同窓会でWS」「朝ごはん会」「スマホで参加できる」「まちづくりを頑張っている人をフォーカス新聞」「市役所1日見学」「職場単位で参加を義務化」「お米」「お洒落な広報媒体、デザイン」「面白そうなテーマ」「話を聞きたいゲスト」「心地よい空間での開催」「面白そうなプログラム」「面白そうながりができる期待感」「毎日開催」「何かを食べながら」「こどもと一緒に参加」「男だらけの対話」「家族みたいなグループ対話」「話の続きをするタイミングがある」「ついで参加」「長時間すぎない」「出入り自由」「機会が多い」

アウトプットまとめ：新しい市政参加チーム

問い：枠にとらわれない新しい市政参加のか形、仕組みとは？

ベストアイデア

- **鴨川に市政参加プロジェクションマッピング**
 - 鴨川などパブリックな場所に、**政策や施策の是非を問うプロジェクションマッピング**を実施（YES/NOが表示されて、石を投げて投票するなど）
 - 結果もタイムリーに共有される
- **遊園地で市政参加**
 - 遊園地にいる時など、**オープンマインド／前向きなタイミング**で、明るい未来を考えるための問いを投げかける
- **越境型サイバー対話空間**
 - **オンライン上に対話空間**を作り、**それぞれが好きなアバター**で参加する（普段の姿と変えられる）
 - アバターを通すことで、**性別・世代・エスニシティ・宗教などの境界を超えやすくする**
- **市政オンライン掲示板**
 - 投稿された市政課題テーマに対して**自分の考えをレス**する。自分でテーマを立ち上げることも可能
 - **テーマ投稿やレスをするとポイントがもらえる**

● ウーバーイツ方式

- 各自がやりたいこと／助けてほしいことを表明し、**一緒にやりたい／できる人、サポートとマッチング**
- **映画を使ったムーブメント型市政参加プロセス**
 - 市政参加してほしいテーマを選定し、**それに関連する参考映画を一定期間、まちのいたるところの公共空間で上映**
 - 映画を見た後は**オープンカフェで対話、スマホ投票**

検討中のアイデア

「ゲームで走りにくい道路がわかる」「座ってつぶやくと市役所に声が届く鴨川ゾーン」「京都市がない場合の市政参加を考える」「床屋で市政参加」「様々なSNSを使って一気にパブコメ」「仮想空間で住みたいまちを考える」「実験！」「マリオカートに京都市を再現、事故多発ポイントのデータを集める」「鴨川のあるゾーンでつぶやくと、それがテキスト化されて市長室のディスプレイに流れる」「鴨川のプロジェクションマッピングに石を投げて政策への賛成・反対を表明」「市政参加のレイヤーを多層化」「SNSをフル活用し年齢層、国境を超えて意見を集める」「未来の京都市を仮想空間に作り対話」「大量の社会実験で気付かないうちに市政参加できる」「植木鉢で自転車レーンを作る」「バーでお酒を飲みながら」「一緒に料理しながら」「趣味を通して」「アミューズメントパークで親子参加型」「参観日」「ボトムアップとトップダウンの相互作用」「サイバーフィジカルシステム」「表象メディアによるクロスボーダー」「不利益・引き算」「システム思考」「ギブ&サーキュレーション」「ネガティブケイパビリティ」「ファン・セオリー」「金融機関×市政参加」「市民共同食堂」「問いを出せる掲示板」「ワークスペース開放」「市バス停留所に問いポスト」「小中学校の授業」「市政参加のメニュー化」「ウーバー方式」「防災」「市政参加掲示板：市民誰もが問いを出せる」「市政参加映画：テーマにあった映画と一緒に見て市政参加」「図書館でテーマにあった市政参加」「現場に問い&意見箱」「地下鉄の車両に問い」「駅前討論会：二人以上集まると討論でき、聞いた人が投票」「京都市の意思決定が事前に全てHPIに公開+パブコメ」「学校で討論したものをそのまま市政参加」